

# 令和6年度 第1回 鶴見区地域福祉保健計画（鶴見・あいねっと）推進委員会 議事要旨

日時：令和6年7月5日（金）14：00～16：00

場所：鶴見区役所6階8号会議室

推進委員：小林委員長、八森副委員長、

石井委員、板山委員、祝出委員、押山委員、小林(広)委員、齊藤委員、清水委員、巴委員、日向委員、平森委員、福井委員、増子委員、松坂委員、宮野委員

事務局：【区役所】

区長、副区長、福祉保健センター長、福祉保健センター担当部長、福祉保健課長、こども家庭支援課長、こども家庭支援課学校連携・こども担当課長、生活支援課長、生活支援課担当課長、

区政推進課地域力推進担当係長、福祉保健課事業企画担当係長、事業企画担当職員（欠席：区政推進課地域力推進担当課長、高齢・障害支援課長）

【区社会福祉協議会】

会長、事務局長、事務局次長、事務局主事

## 1 開会（進行：福祉保健課事業企画担当係長）

写真撮影の承認及び議事録のホームページへの掲載について確認。

## 2 推進委員、事務局自己紹介

### 【推進委員】

委員の退任に伴い、新たに委員になっていただいた2名の方より自己紹介をいただいた。

退任：山崎委員長、谷委員、岩崎委員

新任：板山委員、祝出委員

### 【事務局】

異動に伴い、新たにメンバーに加わった職員から自己紹介をした。

中村副区長、福祉保健センター 黒川担当部長、こども家庭支援課 齋藤課長、生活支援課 秋田担当課長、福祉保健課事業企画担当 宇佐美職員、鶴見区社会福祉協議会 河野主事

## 3 委員長挨拶

みなさまこんにちは。この度鶴見あいねっと推進委員会委員長を仰せつかりました小林です。どうぞよろしくお願いいたします。本日は大変暑い中、御出席賜りましてありがとうございます。みなさまにおかれましては、日頃から鶴見区の各地域において、また、様々な分野において活動いただいております。いろいろ取り組んでいらっしゃるかと思いますが、それぞれの活動を通してみなさまが感じている現状や課題を活かして、このあいねっとの推進に努めていただきたいと思います。みなさまが日頃感じていらっしゃる忌憚ない御意見を本日お伺いしまして、本日の会が活性化することを願ひまして、大変簡単ではございますが私の就任の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

#### 4 区長あいさつ

みなさまこんにちは。鶴見区長の渋谷です。本日は大変暑い中お集まりいただきましてありがとうございます。みなさま方に置かれましては、第4期鶴見・あいねっとの推進に日頃から様々なお立場で御協力いただいておりますことを、この場をお借りして御礼申し上げます。あいねっつに関しまして、昨年度を振り返りますと、今年の2月には推進フォーラムを開催しました。駒岡のフードドライブ、あさひキッズの愛護会、様々な地域のつながり、こんな形でつながっているんだよということが事例として、関係者のみなさまのお話も含めて御紹介いただけて、他の地域も含めて参考になる良いフォーラムだったのではないかと考えています。開催にあたりまして、みなさまに御協力いただいたこと、御礼申し上げます。福祉保健計画については、第4期の計画は早いもので4年目を迎えることとなりました。引き続き推進していくとともに、第5期の計画策定の準備の検討を始めていく大事な時期になってきたと考えています。みなさまの中には第4期の計画策定から御協力いただいた方もいらっしゃると思いますし、これから御協力いただく方もおられると思います。先程委員長からお話があったように、日頃から様々な立場で御活動されている知識、経験を基に実のある計画にしていきたいと思っています。重ねてのお願いではありますが、忌憚のない御意見をいただければと思っています。それでは本日の委員会、それから今年度の委員会全体を通してぜひ御協力お願いいたします。

#### 5 鶴見区社会福祉協議会会長 あいさつ

みなさまこんにちは。ただいま御紹介いただきましたが、この度、渡邊武会長から私、渡邊浩に代わりました。日頃よりあいねっとの推進に努めていただきましてありがとうございます。昨年度、新型コロナウイルス感染症が5類になりまして、徐々にみなさま方の活動も活発になってきているのではないかと感じております。私共社会福祉協議会としましてもみなさまと一緒に、これからは鶴見区の安心・安全、あいねっとの語源にもございます、たすけあい、支えあいの実現に努めてまいりますので、今後とも御指導、御鞭撻のほどよろしく願いいたします。

#### 6 議事（進行：八森副委員長）

（八森副委員長）本日の議題の確認。

新たな委員も加わったため、次期の計画について新しい視点から考えていければと思う。

- （1）第4期鶴見・あいねっつ推進 令和6年度年間計画（案）（説明：事業企画担当係長）（資料3）  
資料3（第4期鶴見・あいねっつ推進 令和6年度年間計画（案））に沿って説明し、次の通りまとめた。

今年度は地域のみなさまと関係機関で協働して、各地区において、第4期鶴見・あいねっつを推進するとともに、第4期の取組の振り返りを行うための話し合いを進めていきたいと考えている。

（八森副委員長）事務局からの説明に対して、何か御意見、御質問等があればいただきたい。

→特になし。

- （2）第19回（令和6年度）鶴見・あいねっつ推進フォーラムについて（説明：区社協事務局次長）  
資料4（第19回度鶴見・あいねっつ推進フォーラム概要）を元に、次の通り説明した。

あいねっつ推進フォーラムは年に1度開催しており、その年のあいねっつに関わる活動の振り返りを行い、まとめ、またそれを発表することにより、あいねっつを周知することを目的に開催している。

昨年度は2地区の事例を発表いただいた。今年度は第4期を振り返り、第5期について考えていくきっかけとなる内容を考えている。説明した内容でよろしければ、今年度の開催方法や事例発表は事務局で内容を検討し1月の推進委員会で御提案できればと考えている。

(八森副委員長)事務局より説明があったとおり、今年度のフォーラムの内容は事務局で検討し、1月の委員会で最終的な承認をいただくことで良いか。

→特になし。

(3) 第5期横浜市地域福祉保健計画の概要について(説明:事業企画担当係長)(資料5-1)

資料5-1(第5期横浜市地域福祉保健計画の概要について)に沿って説明し、次の通り補足した。

市計画は、基本理念や市としての方向性を示す計画、区計画は、区の特性に合った区民に身近な中心的計画、地区別計画は、地区の課題に対応するため地区が主体となり区・区社会福祉協議会・地域ケアプラザが協働して策定・推進する計画となる。

市計画は区計画の推進を支援するとともに、区域だけでは解決困難な課題に対する市域での取組を推進する。同様に、区計画は地区別計画の取組の推進を支援するとともに、住民主体の活動では解決困難な課題に対する区域での取組を推進する。市計画、区計画、地区別計画がそれぞれ密接に連携しながら地域の課題解決に向けた取組を進めている。

今後、鶴見区をはじめとする各区では、令和8年度から令和12年度を計画期間とする第5期区地域福祉保健計画の策定に、今年度、来年度の2か年で取り組む。

(4) 第5期鶴見区福祉保健計画(鶴見・あいねっと)策定に向けたスケジュール及び策定(説明:事業企画担当係長)(資料5-2)

資料5-2(第5期区地域福祉保健計画(区全体及び地区別)策定スケジュール(案))に沿って説明した。要点は次の通りである。

「策定協議体」について、大きな方向性を確認する本推進委員会の下に、具体的な内容の検討を行う策定検討プロジェクトを設けさせていただければと思っている。プロジェクトメンバーは本推進委員会メンバーであるみなさまに加え、民間事業者から、「移動支援」「情報発信」「ヤングケアラー」など、これからの区計画に必要なと思われる視点を持っており、かつ鶴見区を活動の本拠とされている方を選出させていただきたい。

区計画の令和7年度末の策定に向け、今年度は特に「方向性」を確定する大事な年度となる。方向性とは、第4期計画で言うところの、基本理念のほか、3本の推進の柱、3つの推進の土台に加えて、柱ごとの具体的な行動目標なども入っており、今年度はそれらを決定していく年度となる。10月25日(金)、12月20日(金)の2回のプロジェクトにより内容を固めていき、1月24日(金)の第2回推進委員会の場でみなさまに確認していただくというスケジュールで進めていきたいと考えている。

その他6年度中に行うこととして、区計画策定にあたり、区民の方の現状や意向を把握して、計画に反映するための基礎資料として活用するために、区民アンケートを実施する。現時点のスケジュールではあるが、8月上旬に区民の方へ発送を予定しており、集計結果についてははまともり次第、策定検討プロジェクトにおいて報告させていただく。

地区データ分析についても、計画策定に必要なと思われる基礎的なデータをグラフ等により可視化し、区民アンケート同様に策定検討プロジェクトにおいて報告させていただく。

関係団体向けアンケート・ヒアリングについては、区計画策定にあたり、区社協会員を対象に、アンケート調査を実施する。その上で、いくつかの関係機関にはヒアリングを実施することを通し、地域福祉への見解等を把握する。アンケート・ヒアリング共に、詳細はこれから検討していくが、第2回あいねっと推進委員会で結果を共有することを目標に検討を進めている。

4期計画の振り返りについても、アンケートや地区データ分析と並行して、区内関係部署ヒアリング等により材料を集めながら進めていく。

地区別計画 検討・策定については、第5期計画策定も意識しながら、区、区社協、地域ケアプラザの職員が地域の方々とともに第4期計画振り返りをしっかりと行っていく。

(八森副委員長) 計画策定については、推進委員のみなさまに加え、新たな視点をもつ方を選出し、御参加いただく策定プロジェクトの立ち上げについて説明があったが、進め方やスケジュールについて何か御感想、御意見等があればいただきたい。

→意見なし。

#### (5) 意見交換（グループワーク）

テーマ：横浜市第5期市地域福祉保健計画の7つのポイントから「鶴見・あいねっと」を考える  
～今後の「鶴見・あいねっと」や御自身が関わっている活動について必要だと思うこと～

(八森副委員長) 5期計画の7つのポイントから1つまたは2つを選んでいただき、今後の「鶴見・あいねっと」や御自身が関わっている活動について必要だと思うこと、課題だと感じていることなどを意見交換していただければと思う。

意見交換に入る前に、昨年度の開催された推進委員会での意見交換で出た内容について事務局からおさらいを行った上で、今回意見交換していく題材となる5期市計画の7つのポイントについても、事務局から説明をいただきたい。

・令和5年度鶴見・あいねっと推進委員会の振り返りについて（説明：区社協事務局次長）（資料6）  
資料6（令和5年度 鶴見・あいねっと推進委員会 振り返り）に沿って説明した。

・5期市計画の7つのポイントについて（説明：区社協事務局次長）

第5期 横浜市地域福祉保健計画 概要版を元に、以下の重要箇所を強調した。

##### ①身近な地域における「つながり」と「支えあい」の創出

若い世代や企業で働く人など幅広い層へのアプローチや啓発方法を工夫する必要がある。

##### ②世代や分野にとらわれない、包括的な支援体制の構築

分野の枠を超えて横断的につながることが大切である。

地区連合町内会や地区社協等と企業、NPOなどの団体が連携した取組が必要である。

担い手不足解消や人材の裾野の拡大が必要である。

##### ③困りごとを相談しやすい環境整備

いわゆる「8050問題」、ダブルケア、ヤングケアラー、ひきこもりなど、困りごとを抱えていても気づかれにくく、また御本人も声を出しにくい。

困りごとを相談しやすい環境整備が必要である。

##### ④様々な立場や背景、価値観の違いといった多様性を理解し、尊重しあえる機会の創出

障害のある人や外国人、性的少数者など、様々な立場や背景、価値観の異なる人やその考え方

について理解をより一層深めていくことが求められる。

立場や背景を超えて日常的に参加できる場づくりが必要である。

⑤支援機関同士の情報共有・連携強化を通じた支援体制の強化

支援機関がしっかりと連携をとって、支援体制を強化していくことが必要である。

⑥学校と地域が一緒になって子どもを育てるための取組

子どもの頃から地域の中でつながる機会が広がっていくためには、学校や地域が一緒になって取り組んでいくことが大切である。

⑦一人ひとりの関心・参加意欲、個性に着目した多様な活動機会の創出

新たな交流の方法や開催方法を工夫し、市民参加の裾野を広げていく必要がある。

福祉保健活動という枠にとらわれない自由な取組を推進していくことが必要である。

7つのポイントにはないが、新型コロナウイルス感染症の影響で、デジタルの分野が進み、今後の活動に生きてくると思う。

(八森副委員長) ここで市計画策定に委員として御参加された小林委員長、増子委員に、よろしければ策定に御協力・御参加されての所感をお聞かせいただきたい。代表して小林委員長いかがか。

(小林委員長) 私は市の民生委員児童委員協議会の理事という立場として参加した。学識経験者を中心にいわゆる理論の部分が先行し、策定に向けて検討を進めた点が印象に残っている。市の計画の場合は、実際の地域が身近にない分仕方がないと思うが、理論的な議論が先に交わされた。区の計画の場合は、地域の具体的な課題から鶴見区全体を考えるとというプロセスを通して検討することで、より現実に即した、中身の濃い計画になると感じている。本日はみなさまが普段感じていることを共有し、鶴見区地域福祉保健計画をより良いものにしたいと感じており、活発な議論を期待している。

(八森副委員長) 個人ワーク及びグループワークの手順について説明した。

<個人ワーク(約3分間)実施後、3グループに分かれてグループワーク(約30分間)を実施した>

【グループワークのまとめ】

(Aグループ)

・ポイント①について

視覚障害のある方の立場からすると、デジタル化される際に説明が足りていないと感じており、便利なものも使うことが難しいため、視覚障害のある方が使いやすいものにしていただきたい。鶴見区では視覚障害のある方が約600人いるが、鶴見区視覚障害者福祉協会に登録されている方は30人程度であり、つながりがまだ少ないため、つながる場があれば良いと感じる。

・ポイント③について

わっくんひろばではコロナ禍で対面での相談を受けることができない状況が続き、相談するという経験をしたことがない方が多いため、そういった方を支援したい。

視覚障害のある方は災害時に困ることが多いため支援したい。

・ポイント④について

コロナ禍で価値観が変化したことを感じ、改めて各世代の価値観を共有することが大切だと感じる。働いている人が多いため夜間の会議を始めたが、大変盛況で、限られた時間の中で参加いただい

いるためみなさまに真摯に向き合っていただけだ。

防災拠点についてチラシを作り周知したが、最近立ち上げたサロンでチラシを見たことがあるか聞いたところ、見た人は30人中3人であった。引き続きチラシの配布方法を工夫し、周知活動を継続して行っていく必要がある。

・ポイント⑤について

こちらはポイント④にもかかわる意見だが、外国人の方といっても、その中に高齢者の方、認知症の方、発達障害の方などがおり、国際交流ラウンジだけで対応できる方は少ないため、地域で協力して包括的な支援をする必要がある。

(Bグループ)

・ポイント①について

特定の〇〇委員といった方に負担が偏っているのではないか。

一生懸命支援しようとしても、個人情報との関係等で情報がなかなか行き届かない。

認知症カフェなどを開催しても、一番来ていただきたい人はなかなか来れない状況もある。

・ポイント②について

認知症キャラバンメイトの関係で、高校生に授業の一環でお話しした際、実体験を話すことで興味を示してくれる生徒が多かった。

・ポイント③について

地域ケアプラザで支援や活動ができていても、そのことを知らない人がまだまだいる。

例えば精神障害など、個々によって状況が異なるのでそこを理解していただきたい。

地域ケアプラザ等では、本人が相談しようと思っていない場合のアプローチが難しい。

・ポイント⑤について

他機関との連携で新しいこともできるが、コーディネーターによって継続的な支援につながるか、そうでないかが変わってくる。

民間企業から声がかかることもあるが、「株式会社」等と聞くと受け入れる側も抵抗がある。

・ポイント⑥について

生麦小学校では先日100周年記念の式典を行い、実行委員会を作る中で、子どもと地域の方で顔の見える関係ができたことが良かった。これからも一緒に関わる仕組みが必要である。

(Cグループ)

市の計画は理論が先行してはいるが、「つながり」、「認め合う」というキーワードが多く出てきた印象である。

・ポイント①について

鶴見区全体で見守りをする仕組みづくりができれば良いと感じる。

ポイント⑤にも関わるが、学校に行けない子はどこに相談に行くのか。学校に行き始めた子で学校に行けない子を家庭ごと相談できる場所があれば良いのではないか。地域でそういった活動をしていくと良いのではないか。

・ポイント④について

障害者に関する個別のサービスが発達したが、親の専門性が求められており、生きづらくなっているようにも感じる。個人化・専門化していて、そういうものが孤独につながっていくことを考えると、地域を土台とした関係性のバランスが大切である。

・ポイント⑥について

防災、イベント、資源回収等の生活の中の身近なところに子どもが小さい頃からなじむことで、地域とつながっていくのではないかと、そういった活動をしていきたい。

#### 【八森副委員長からグループワークの講評】

支えるといったところでは、ある特定の障害のある方が情報にアクセスできない状況があるのではないかと、一つの例として視覚障害のある方について挙げていただいた。便利なものもできたが、そこにアクセスできない人もいるため、情報格差が生じないような取り組みについて今後考えていく必要があるのではないかと。おそらくこれは視覚障害のある方以外の部分でも起こりうる。

まだまだ本当に必要な人に支援や情報が届いていないのではないかとといった話もあった。申請しない人が取り残されていると感じる。そういった人への情報提供あるいは実態把握といった課題が残されている。

コロナ禍の影響として、特に子育て世代は、従来ママ友等と相談ができる状況であったが、人に会えない状況が続き、人にどうやって相談するのか、何を相談するのか、何が本当に問題なのか、そこが分からず相談にも至らないという問題が生まれた。この問題についても検討する必要がある。

相談に関して、不登校児についてもいくつか述べられていたが、なんとか地域の中で相談しやすい相談体制を作っていくかということが課題として挙げられていた。

必要な支援の提供に関しては、災害については区民のみなさまの関心ごとであり、発災した際に、視覚障害のある方に情報が行き届かない点が課題であり、防災拠点の周知が必要であるといった意見があった。

場や機会に関しては、視覚障害のある方がつながる場づくりや方法がないのかといったところで具体的な数値を挙げていただいた。これについて取り組んでいきたいとのことであった。

子どもへのアプローチに関しては、地域の身近な活動を子どもたちと一緒に取り組むことで、知らず知らずのうちに地域のつながりや福祉についても関心を持てるのではないかと。こういった取り組みを小さい時期から具体的に進めていく必要があるのではないかとといった意見が出た。実際に地域と学校が一緒に取り組んだことは非常に効果が高かったという事例を挙げていただいた。実体験を地域の場で伝えていく機会を計画の中に盛り込むことはできないかという話もあった。

つながりの創出の一例として、なかなか集まることが難しい忙しい方たちに、夜に開催した際は盛況だったという話があった。それぞれが集まりやすい時間や場について考えることで、つながりの可能性は広がるのではないかと。

多様性の尊重に関しては、外国人の方といっても、その中で様々な問題を抱えた方がおり、外国人の支援者だけでは十分な支援が行き届かないといった意見が挙げられた。支援者がつながり、それぞれの状況を良くするような取組をしていきたいといった話であった。本日言われたことをさらに詰めることで、次期の計画が現実的・実践的で効果的なものになるのではないかとと思う。

今後様々なつながりが必要になるが、そこでキーとなるコーディネーターがどんな人かによって上手くいくかが変わってくるという課題がある。そういった意味では、コーディネーターの機能をどう高めていくのかについて検討する必要がある。

様々な課題について当事者の声を聞くことが地域福祉保健計画の根本にあるといった御提案もいただいた。ここにはない様々な種が各グループの模造紙の上に載っているのではないかとと思う。本日の意見を事務局でまとめていただければと思う。

## (6) その他

(事業企画担当係長) 今回意見交換においてお話しいただいた内容を踏まえて、次回のプロジェクトで御議論いただく内容を事務局で検討し、決定させていただく。策定検討プロジェクトでは、今回お集まりの皆さまのほかに、3名に御協力いただく予定である。それぞれ「移動支援」「情報発信」「ヤングケアラー」など、これからの区計画に必要となってくるとされる視点を持っているだけでなく、鶴見区を活動の本拠とされている方なので、それらの方を交えて活発に御議論いただきたいと考えている。

活発な議論のためには、プロジェクトで議論いただく内容について、当日お示しする形ではなく、極力事前にお示しさせていただくようにするなど、事務局の方でも工夫させていただきたい。

また、本日の議事録は後日ホームページに掲載する。内容の確認については、委員長に一任いただきたい。

→異議なし。

## 6 閉会

(小林委員長) 御参加いただいたみなさまには、本日出た活発な御意見や八森先生のお話を各団体に持ち帰っていただき、それぞれの分野において連携をより一層進めていただければと思います。